

神奈川県立柏陽高等学校における学校運営協議会 開催結果（議事録）

本校の学校運営協議会を次のとおりに開催した。

審議会等名称	神奈川県立柏陽高等学校 令和5年度 第3回学校運営協議会
開催日時	令和6年3月13日（水） 14：00～16：00
開催場所	神奈川県立柏陽高等学校 大教室
出席者	<p>[役員名]</p> <p>[委員]</p> <p>川口 吉秋（会長、元県立高等学校長） 堀口 和美（横浜市栄区長） 飯島 俊朗（横浜市消防局栄消防署長） 細田 利明（本郷中央連合町内会自治会長） 一杉 太郎（東京大学大学院教授、本校卒業生） 湊 浩一（横浜市立本郷中学校長） 原 南実子（横浜市立本郷台小学校長） 野沢 重和（柏陽高等学校長）</p> <p>[事務局]</p> <p>大河原 広行（副校長）、竹村 健二（教頭）、飯塚 洋史（事務長） 東條 薫（総括教諭）、 吉田 将人（総括教諭）、目黒 梓（総括教諭）、高比良 洋二（総括教諭）、裏辻 悠真（教諭）、 大坂 綾花（教諭）、豊永 将義（教諭）</p>

～開会～

1 校長挨拶

〈野沢校長〉

2月に入学者選抜が事故なく終了し、319名の入学が決まった。ウェブ出願が始まったり、柏陽高校では面接を実施しなくなったりと、入学者選抜が大きく変わった。3月には卒業式も行われ、来週には合唱祭やディベート大会、球技大会がある。

一年間がもう終わるのかという気持ちがある。

今回の学校運営協議会では、ご意見を頂戴して、今後に活かせるような協議をしていきたい。

2 協議

(1) 令和5年度の教育活動について

[各グループによる説明]

グループ名	説明者	概要
総務・管理	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前の学校生活や環境衛生関係が戻りつつあるが、コロナでの知見も生かして調整していき、感染予防対策も行う。 ・消防署と協力しながら、防災訓練も行った。第1回は帰路確認、第2回は消防体験を行った。次の第3回では、洪水災害をイメージし、部活動中の訓練を行う予定。 ・学校会計については、問題なく進められている。
研究・広報	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会を計3回行い、延べ2570名参加した。来年度は、学校の様子をより実感してもらうために、オープンキャンパスを実施する予定。 ・HP担当者を増やして、組織的に運用できるようになった。

グループ名	説明者	概要
研究・広報	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習では、2年生が初めて本格的な実施となり、ポスターセッションと論文作成を行った。 グローバル教育では、海外研修が行えるようになり、海外リーダーシップ研修やUCバークレーも再開した。
教務・学習	清田教諭	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な授業改善の取り組みとして、RPDCAサイクルを意識した。 目標や手立てを考え、6月の研究授業や7月の生徒による授業評価を経て、夏季休業中に改善をした。11月10日は研究授業を行い、県の指導主事と他校教員を呼び、コロナ前と同等のものを実施できた。 今年度は新教育課程と旧教育課程が混在しており、教育課程の移行がテーマであった。
進路指導	市田 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> 55期生の進路は例年と同じ。東工大が増えた。 進路説明会と保護者説明会はGWに開催。推薦入試の希望者が減り、一般受験への関心が増えた。 東大 in 柏陽、東工大 in 柏陽は100名程度参加した。共通テストの情報取り組みと県外進学校視察を実施した。 進路説明会は栄公会堂で開催予定。58期生は合格者説明会の中で保護者進路説明会を開催予定。
生活支援	目黒 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の健康を保つことを目的とし、かながわ子どもサポートドックを始め、SSWが週1回来校。 学校生活が楽しいという回答が多いが、進路や学業に対する不安もある。 悩みを抱える生徒については担任が面談をし、学年で共有。 SOSを発見し、要対応と出た生徒とは面談を行い、必要な生徒は専門家に繋いだ。
活動支援 G	高比良 総括教諭	<ul style="list-style-type: none"> 昨年は新型コロナウイルスの感染症対策による制限が多かったが、今年は緩めた。体育祭は700名以上、柏陽祭は3000名、合唱祭は400名が来校した。保護者等のビデオやカメラの撮影について課題であると認識している。 昼休みに体育館でダンス部が発表をするなど、大会だけでなく、普段の活動も充実している。 栄区との共同で文化祭での模擬投票があった。来年も充実させていきたい。

[学校運営協議会委員からのご意見・ご感想]

〈川口委員〉

探究が今年から始まったが、柏陽高校は昔ながらの学校で、生徒が活動する場所が少ないと感じるが、工夫した点はあるか。

〈東條総括教諭〉

教務と協力して多くの部屋を確保し、8クラスで活動を行い、93グループが発表を行った。建物全体を会場として使用し、次年度には狭い廊下の問題を改善したいと考えている。

〈堀口委員〉

卒業式と入学式に参加し、初めての経験でしたが、とても良かった。美術部と本郷台駅の街灯にバナーフラッグを設置し、3月25日に美術部が作成したものを掲示する予定。また、陸上部などの実績を改札向きの懸垂幕に掲示できるよう、要項を4月から作る予定。

〈飯島委員〉

カウンセラーの充実が良かった。授業の柏陽というスローガンを掲げつつ、カウンセリングもやってくれるサービスは進路の不安などに対して安心できる。教員との面談を行うことも素晴らしい。一方で、担任に相談しづらいこともあるので、リクエストした教員などとクロス面談するシステムを作るとより良くなるのではないかと。また、教員も相談できるシステムがあると良いのではないかと。

〈細田委員〉

柏陽祭で廊下が歩けなくなるくらい混むなどのスペース的な課題がある。広い場所で楽しみやすい場所だと地域住民の認識も高まるため、中庭だけでなくグラウンドも使うと良いのではないかと。

また、柏陽生は登下校時に信号を斜め横断してなくて素晴らしい。栄区の中学生在ができるだけ多く柏陽に入学するとよい。

〈湊委員〉

進学率の高さが素晴らしい。教育改善をする姿が見られ、柏陽の先生の情熱や取り組みに感服している。さすが、授業の柏陽という看板を背負っているなど感じる。

保護者の行事の出席率が高いことから、教育の貧富の格差が広がっているのだと感じる。柏陽の生徒が今後、社会に出たときに貧富の格差をなくす使命を担っている。恵まれた子たちが将来、貧富の格差などをなくせるような教育をすることが柏陽の教員の使命であるとも言える。

〈一杉委員〉

地域との連携も素晴らしい。総合的な探究の時間では、ポスター発表や研究報告書の提出があるときいた。報告書を2、3個送っていただければ、コメントし、励ましていきたい。

〈原委員〉

授業評価の結果を評価すべきだと感じる。どの評価項目も外側に広がっており、2回目はさらに伸びている。先生が授業を作り、生徒に力を付けさせていることの現れである。

サポートドックについて、要対応の生徒の数に対して、専門家に繋がらなかった生徒が多かったことから、学校での対応の素晴らしさを感じた。サポートドックで9月と12月で違いが見られたことから、学校生活アンケートを12月にもう一度行っても良いのではないかと。

〈田中委員〉

柏陽高校の60周年が近い。50周年では体育館前の石畳の整理をした。60周年に向けて、準備を進めたい。柏樹会の活動を活発化、支援を考えている。

(2) 令和5年度の学校評価

[各グループによる説明]

グループ名	説明者	概要
総務・管理	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none">・学校管理では外部の講師を招き、アンガーマネジメントなどの教員の研修を行った。研修会の意識は向上しているが、満足せず継続をしていきたい。・業務の効率化として、電子データやアプリを使っている。しかし、改善の余地はある。防災は地域との連携をより密にして充実を図っていきたい。
研究・広報	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none">・HP による広報活動は、学校説明会でのホームページに関するアンケートで、「柏陽高校を知るために役に立った。」という回答が9割を超えた。以上から、外部への広報活動ができたと考える。・HP については、学校行事などは各グループで担当をし、広報担当者の負担を減らすことを課題としている。・来年度は8月の学校説明会をなくし、生徒の様子が感じられるよう、生徒の活動している姿を見ていただけるようなオープンキャンパスを考えている。・救命救急法の講習など、コロナ前に実施していたことを開催できた。今後の課題として、生徒に人気のある講座が限られているため、生徒のニーズにあった講座を増やすなど幅広い講座の受講に繋げたい。
教務・学習	清田教諭	<ul style="list-style-type: none">・実力アップ講習を設置した。講座数は昨年度と概ね同数であった。昨年度よりも単位認定された生徒が増えた。・講座や講習については、教科として組織的に行っているが、土曜日に行うため教員の働き方が課題になっている。
進路指導	市田 総括教諭	<ul style="list-style-type: none">・進路の実現ができた。評価の目標は達成。・出願指導検討会、生徒向けの進路説明会などの活用がうまくいったため、充実させていきたい。
生活支援	目黒 総括教諭	<ul style="list-style-type: none">・SC と SSW の利用を充実させることを目標とした。SC は 80%以上増加した。・来年度の課題は SSW が週に1度来てくれているが、教員の中で SSW についての認識が足りておらず、活かしきれていないことから、職員の周知を徹底したい。
活動支援	高比良 総括教諭	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の知見を活用できたが、コロナ前の知見を活用できなかった。しかし、他校での経験を活かすことができた。・来年は今年度の知見を、生徒の中でフィードバックし自走できるようにする。・Google Classroom を使って委員会、部活動の顧問との連携をうまくやった。学習だけでなく、部活動でもより高い目標を目指していきたい。

[学校運営協議会委員からのご意見・ご感想]

〈田中委員〉

学校運営は職員一人ひとりが課題意識を持って取り組んでおり、良い組織に感じる。授業、相談体制、情報発信がよくできている。授業評価の経年評価をみると、八角形の面積が増えるところと、あまりそうでないところがある。探究は3年から5年かかるもの。これからは、どこを見ても素晴らしいポスターセッションとなることを望んでいる。また、学校のいたるところがカウンセリングルームになることを期待している。情報発信も引き続き行っていきたい。

〈原委員〉

学校生活アンケートで、地域に関連する回答が少ないように感じる。栄区を土台にして世界へ羽ばたいてほしい。そのためにも、地域貢献への意識が上がるような活動や関わりが増えると良いのではないか。地域と連携した生徒のキャリア形成を行ってほしい。

〈細田委員〉

中学生の中では、柏陽は進学できないほどレベルの高いという印象がある。中学校でも HP を活用しやすい体制がほしい。地域と一緒に防災訓練をすることで、地域との関係が横に広がってよいと思う。

〈飯島委員〉

SSW に無理につなげることも方策としてありではないか。高校3年間のうちに1回、または1年に1回でも上郷自然の森など柏陽以外の栄区の場所を見るような行事を通して、栄区を知ってほしい。柏陽はブランド力の向上に舵をきっている様子がよくわかる。

〈堀口委員〉

ホームページは、柏陽高校について知ってもらうための入口になる。そのため、今後とも充実させてほしい。ただ、それだけでは柏陽高校についてはわからないため、学校の中に入る機会が増えるとよい。

横浜市は今後ドローンをイベントや防災訓練でも活用していく。栄区のボランティアセンターとして柏陽高校を使えるよう、準備が整っていると嬉しい。

〈川口委員〉

HP では中学生、保護者、地域の方、教育関係者等に柏陽の様子を伝えるツール。攻めの情報発信として、柏陽のいいところや改善している様子を全面的にアピールするとよい。授業改善を続けていく姿勢は素晴らしく、教育の継続性があり、レベルアップを着実にこなしている。現状で満足せず、向上心をもって教育に取り組む姿勢がよいため、先生方が頑張っている様子をプラスにとらえて発信すべき。

(3) 学校教育計画・スクールポリシー

〈校長〉

令和6年度から新しい目標と取り組みになる。ミッションが大きく変わらない以上、学校教育目標の大幅な変更はないが、時代に合わせて変更していく。

計画策定時点での課題について、柏陽高校に入りたくて入った生徒が転学している。自己肯定感や期待に答えられない様子から不安を感じる生徒が多いことから SC や SSW の充実を図ることとする。

以上を踏まえて、柏陽高校の様子が1枚の紙でわかるようなグランドデザインになっている。

[各グループによる説明]

グループ名	説明者	概要
総務・管理	東條 総括教諭	<ul style="list-style-type: none">・グローバルと探究を本校の教育の2本の柱として、総合型選抜に対応できるようにする。・柏陽生が真面目というイメージから脱却できるようにしたい。
進路指導	市田 総括教諭	<ul style="list-style-type: none">・進路実現について、探究活動を活用した進路指導を見据えていきたい。

[質疑応答]

〈川口委員〉

基本的な学校経営方針を元に、校長の思いは含まれているのか。

〈野沢校長〉

学力をもとに柏陽を選ぶと、授業内のグループワークが苦手な生徒が入学してくる。そのため、学校説明会などで、柏陽の特色を発信し、少しでもミスマッチを減らせるようにしたい。今後、入試の特色上、男子が増えていくだろうと考えており、男子が増えた際のグローバル教育についても考えていく必要がある。これからの4年間は今までやってきたことをブラッシュアップすることと支援体制の充実という2本の柱で学校経営をしていく。

(4) (1) から (3) についての承認

(一同拍手) 承認

3 最後に

〈野沢校長〉

課題が2つある。1つは、柏陽高校は職員の頑張りによって成り立っている。そこは大きな課題として捉える必要がある。自分の考えや感覚を変えていく必要があると感じた。もう一つは生徒支援が課題である。柏陽生は、まじめで全てのことに全力で取り組むことがいいところである。ただ、与えられたものについては応えることができるが、それだけでリーダーとして時代を担うことができるのかと考える。次のステップにいけるよう、生徒たちに伝えることが課題だと感じる。これからも柏陽高校の発展に向けて運営していくので、見ていただけたらと思う。